

## 『「かわいい」のお手伝い』

株式会社銀座マギー プールスタジオアリヴィエ 五反田東急スクエア店  
尾下 由来子

「男ウケいい服ってありますか」

私が入社して間もない頃、店に立つ私に彼女は問いかけてきた。

「男ウケ？」

普段あまり耳にしない言葉に、私は思わず聞き返してしまった。

彼女は、容姿の整った綺麗な女性だった。背は160cmを超えていて、足もすらっと長く、スタイルが良い。清楚、というよりは、クールビューティな印象のその女性は、現在30代手前。近々お見合いをすることになり、相手の男性と会う時の服を探しに来たのだという。

「個人的には、このワンピースがすごく好きなんだけど、どっちの色が似合うかわからなくて」

彼女が手にしていたのは、うちで人気のワンピース。緑と赤の二色展開の商品だ。確かに、オケージョンシーンにも活用できることに加え、かしまり過ぎないカジュアルなデザインで、ランチやディナーに行くのにも使えるワンピースだから、お見合いにはもってこいの代物ではある。サイズのにも、彼女にはジャストサイズだろう。

「折角お見合いするんだから、やっぱり相手にかわいく映りたいじゃない？」

「そうですよね、素敵に映りたいですよ。ご自身ではどちらの色がお好みですか？」

「個人的にはこっちの緑なんだけど…ちょっとお見合いには派手かなとも思うの。私派手な色好きだから」

「なるほど、確かにこちらの緑も素敵ですよ。私は、こちらの赤の方が、お客様の明るい雰囲気により合っている気がしますよ、お顔の血色も良く見えますし」

どこかで聞いた話だが、一般的に女性は、自分の服を選ぶ時、緑や青といった寒色系を選ぶ傾向があるらしい。実際、緑は肌を綺麗に見せてくれる色ではあるし、日本人の肌に合うとされている。反対に、男性が女性に着て欲しいと思う服は、赤や黄色などの暖色系なのだという。女性らしい、明るく華やかな印象や雰囲気を、無意識的に女性に求めているからなのだとか。

以前来店された女性客が、このワンピースの赤を試着して、連れの男性に意見を求める場面に遭遇したことがある。男性の反応は上々。その女性客は喜んで赤のワンピースを買っていった。

どちらも捨て難いが、予算的にどちらかしか買えない、デザインは申し分ないし、赤も緑もどちらの色も好きだから、どっちを買っても気に入りそう。そう悩んでいる彼女に、ふと私は言葉を漏らした。

「男ウケするのは、赤の方ですかね」

その後の彼女の反応は素早かった。

「え！じゃあ赤にします！」

あまりの即決ぶりに私は目を丸くした。ふっと笑い声が漏れ、彼女と目が合うと 2 人で笑いあってしまった。

「あなたは私の欲しい言葉をくれるから、服が決めやすいわ」

相手の求めているものを渡すことができる。当たり前のようなことが、実はとても難しいことなのかもしれない。

結果、彼女は赤のワンピースを買って「ありがとう」と、お店を出て行った。

それから数週間後のことだ。あの赤いワンピースを着た彼女が、少し年上そうな男性と一緒に仲良く腕を組んでお店の前を歩いていく姿を見かけた。店内にいる私に気づいた彼女は、軽く会釈をしてくれた。それからは度々、その男性とお店の前を通る姿を見るようになった。

「彼がお見合いの相手、いい人でしょ？あなたのお陰ね」

仕事帰りに、ふと 1 人でお店に寄ってくれた彼女が笑顔でそう言った。繋がりのきっかけの服を選ぶお手伝いできたことが、私はとにかく嬉しかった。

可愛く在りたい、美しく在りたいと思う女性たちの、『かわいい』のお手伝いをする。この出来事をきっかけに、それが私の仕事の根底になったように感じている。

年齢や体型、目的に関わらず、女性が何かの為に『かわいく』在ろうとする姿は、見ていて応援したくなる。それに感化されてなのか、より一層ファッションに興味を持ち、ヘアスタイルや身だしなみにも気を使うようになった。自分自身、『かわいく』、在ろうと思えるようになった。

「今日もいい仕事したな」と感じられるのは、服を買って笑顔で去っていく女性たちの姿を見送る瞬間。

その服が彼女たちの『かわいい』の手助けになればいいな、と私は今日も思うのだ。